

根鄉公民館

根郷地区の概要

根郷地区は、佐倉市の南部に位置し、鹿島川右岸とその支流高崎川及び上流の南部川左岸に挟まれた丘陵地に位置している。

「根郷」の「根」は、ものの根元を意味し、嶺・尾根に通じ、「郷」は、里・村を意味しているが、当地区は、台地上或いは台地の根もとを取り巻いて集積した集落により構成されており、旧石器時代、縄文、弥生期の土器出土、住居跡、古墳及び中世の城館跡などが点在し、古来より住みよい所であったと思われる。

中世は、上総介一族の勢力下にあった印東荘（古代末から中世にかけて佐倉・酒々井・富里に有った荘園）に属し、承平年間に千葉氏が支配するようになってから集落が点在しはじめ、現在のような村落が構成されたのは藩政時代に入ってからとなる。

明治22年4月、町村制が施行され、六崎、石川、城、木野子、神門、寺崎、太田、大篠塚、小篠塚の9地区により根郷村が発足した。

当地区は、旧来、鹿島川と高崎川流域を中心に、稲作を主体とした農業が営まれる農耕地帯であったが、現在、地域全体では、農村地域に残る自然豊かな山野と田畑、藤治台・大作・大崎台・山王・春路等の住宅地域、更にはJR佐倉駅周辺の商業地域、佐倉インターチェンジ周辺の臨空工業地域といった多面的な地域構成となっている。

地区内には、JR佐倉駅と東関東自動車道の佐倉インターチェンジがあり、鉄道と高速道路における佐倉市の玄関口となっており、更に成田空港に近接する地の利を生かし、第一・第二・第三工業団地・熊野堂工業団地が整備され、本市の産業の中心地となっている。

また、地区内には、諸学校施設として、根郷小学校、寺崎小学校、山王小学校、南部中学校、根郷中学校、県立佐倉南高等学校（併設：県立印旛特別支援学校さくら分校）があり、文教地区としての側面も持ち合わせている。

根郷地区の面積は、市域全体の16.9%に当たる約17.5km²、人口は14.7%に当たる25,038人であるが、今後は、独立行政法人都市再生機構施行による土地区画整理事業「寺崎北」地区（施行面積46.3ha、計画人口5,000人）への転入等により緩やかな人口増加が見込まれると同時に、JR佐倉駅に近接する寺崎地区は、新たな商業集積地として発展している。

根郷地区のデータ

【令和6年3月末現在】

- | | | | |
|------------|------------------------|-----------|--------------------------|
| ○根郷地区：面積 | 約17.5km ² | (佐倉市：面積 | 103.69km ²) |
| ○根郷地区：住基人口 | 25,038人 | (佐倉市：住基人口 | 169,930人) |
| ○根郷地区：人口密度 | 1,430人/km ² | (佐倉市：人口密度 | 1,638人/km ²) |

1. 公民館運営計画

運営方針

佐倉教育ビジョンを基本として、根郷地区の特性を活かし、住民の生涯学習及び各種地域活動の場として中心的な役割を果たす施設となるように努める。

努力目標

- 新型コロナウイルス感染防止対策について、個人や事業者の判断で自主的に感染対策に取り組んで頂き、基本的な感染対策を推奨し、施設の管理運営を行う。
- より多くの人に利用してもらえる施設となるよう、施設設備の提供等に工夫をこらすとともに、利用者に好感を持たれる対応に努める。
- 幅広い年齢層の幅広い要望に応え、時代のニーズに応じた多様な事業を展開する。
- 地域の社会資源を活用するため、また、郷土意識の高揚のための橋渡し役となるように努める。
- 地域に根ざした社会問題への関心の喚起に努める。
- 公民館に関係する各種団体と連携を密にし、活動の支援に努める。

施設利用

開館日・開館時間

①日曜・月曜・火曜・祝日 9時～17時

②水曜～土曜 9時～21時

※17時以降の施設利用がない場合は17時まで

利用区分 1時間単位（9時～21時）

休館日 第2・4月曜日、年末・年始 12月28日～1月4日

2. 公民館利用状況

年度別利用状況

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用件数 (件)	2,547	630	1,571	1,797	1,874
利用人数 (人)	27,829	4,673	11,949	17,345	20,954
開館日数 (日)	309	239	333	333	334

令和5年度施設別年間稼働率

施設名称	利用可能回数	利用回数	稼働率
ホール	3,448	1,079	31.3%
学習室1	3,448	857	24.9%
学習室2	3,448	833	24.2%
プレイルーム	3,448	782	22.7%
調理室	3,448	385	11.2%
和室	3,448	172	5.0%
集会室	3,448	1,075	31.2%

領域	事業名	対 象	期間・回数	内 容
家庭 教 育	みんなと遊ぼう ぼっぼちゃんくらぶ	2歳児と保護者 15組	5/12 12人 5/26 10人 6/9 10人 6/23 10人 7/14 8人 9/8 中止 9/22 10人 10/13 12人 10/27 10人 11/3 15人 11/24 12人 12/8 10人 1/12 12人 1/26 10人 2/9 12人	親子で一緒に運動や絵本・手遊び・工作等 を楽しみ、幼児の様々な発達を促した。
	こども工房「家族と楽 しむ寄せ植え体験講 座」	こどもと家族10組	6/17 19人	こどもとその家族で行うワークショップを 通じて、豊かな心を育むプロセスと時間を 提供し、家庭の教育力の向上を図った。
青 少 年 教 育	防災デイキャンプ	根郷地区小中学校 児童・生徒 21人	7/31 5人	災害時に役立つスキルを学ぶとともに、子 どもたちの自主性・協調性を高め、心豊か でたくましく生き抜く力を育んだ。 また、子どもたちの体験活動に係ること により、地域住民や地域団体のつながりを深 め、災害時の共助について考える一助とし た。
	夏休み子ども体験講座	メタル絵画に挑戦： 小学1年～6年 15人	7/28 15人	体験型事業として、「絵画教室」を開催 し、子どものやる気や自主性・協調性等を 養った。
		読書感想文教室： 小学5年～中学2年 20人	7/21 11人 8/18 13人	児童・生徒が本に親しむ機会を作るととも に、読書の感動を文章に表現することを通 して、豊かな人間性を考える力を育み、正 しい日本語で自己表現力を養った。
		勾玉づくりに挑 戦！：小学3年～6年 20人×2コース	8/10 午前 19人 午後 20人	体験型事業として、「勾玉づくり」を開催 し、子どものやる気や自主性・協調性等を 養った。
成 人 教 育	根郷寿大学	60歳以上 80人	5/19 76人 6/16 74人 7/20 65人 9/15 68人 10/20 74人 11/17 65人 12/15 68人 1/19 71人 2/16 66人 3/15 67人	郷土の歴史や文化、健康づくり等の幅広い 分野を学び、教養の向上と社会参加の推進 を目的とし、また、受講者同士の交流も 図った。 ①歴史・文化(佐倉の歴史等) ②防災 ③健康づくり
	シニアのための健康づ くり講座	成人 20人	10/4 14人 10/11 14人 10/18 13人 10/25 16人	健康の維持増進を図り、生活習慣病予防を 目的として、日常生活の中で簡単に出来る 有酸素運動等を中心に健康体操を実践し た。
	シニア向け初めてのス マートフォン教室	60歳以上 10人×2コース	10/6 午前8人 午後7人	スマートフォンを、安心・安全に使うに は、どうしたらよいか。Docomo社員を講師 に招き、理解を深めた。
	園芸教室「目で見て食 べて楽しめるローゼ ル」	成人 25人	5/31 24人 6/7 23人	佐倉ハーブ園と連携し、ハーブについての 講義とハーブ園見学など地元企業を知る講 座を実施した。
	珈琲学入門講座 ～おいしさの方程式～	成人 10人	11/11 9人	人々の暮らしに潤いを与える至福の一杯、 珈琲の基礎知識、文化と歴史、珈琲豆の選 び方、抽出技術等を学び、珈琲の持つ魅力 を再発見した。
	明治安田生命連携事業 『仕事や家庭に役立つ 「整理収納」講座』	成人 50人	11/30 36人 12/7 37人	効率的・効果的な整理収納を学ぶことによ り、豊かな生活を送れるようにした。 明治安田生命との連携事業として開催し た。

成人教育	千葉県文書館出前講座 『近世城下町の祭礼～江戸天下祭と佐倉城下麻賀多明神祭礼を素材に～』	成人 50人	9/29 34人	千葉県文書館から講師を派遣していただき、城下町の祭礼の歴史について学び、地域への理解を深めるため、講座を実施した。
	東洋大学生涯学習支援プログラム 『記憶と忘却のメカニズム』	成人 50人	11/10 43人	東洋大学から講師を派遣していただき、脳のメカニズムや活性化について理解を深めるため、講座を実施した。
	おとなのための寄せ植え体験講座	成人 20人	12/17 20人	寄せ植えの基礎知識、追肥の仕方などを学び豊かな生活を送れるようにした。また、きれいな街づくりの一助となることもねらいとした。
	佐倉学	佐倉学入門講座	5/29 46人	「中世佐倉の道の歴史」 講師：遠山成一氏
			11/29 19人	「カメラで覗いた印旛沼」 講師：内田儀久氏
		佐倉学入門講座 根郷ふるさと探訪	春の野草観察会 4/14 15人 秋の野草観察会 10/17 14人 寺崎地区散策 11/8 17人	根郷地区を散策しながら、季節の野草を観察し自然に親しんだ。（野草観察会） 根郷をテーマに学び、自然や史跡、習俗行事等を訪ね、郷土を再発見することにより郷土愛を高めた。（根郷地区散策）
			12/5 10人	こんにやく芋から、こんにやくを手作りして調理した。
	団体育成	根郷地区社会教育 関係団体への支援	該当団体	「南部地区子ども会育成会連絡協議会」、 「根郷地区青少年育成住民会議」及び各種団体の活動を支援した。
			4/10 4人 4/28 6人 (チューリップ球根掘り) 5/15 4人 (5/8雨天のため) 6/12 2人 7/10 5人 9/11 5人 10/16 5人 11/13 6人 12/11 6人 1/15 6人 3/11 6人	第2月曜日の午前中（冬季休み）
		定期利用者懇談会	利用団体代表者	公民館の活動について理解を深めて頂くとともに、利用団体からの意見、要望を伺う。また、グループ活動の意義の理解を深めた。 今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から書面にて開催した。
		調理室利用者懇談会	利用団体代表者	3/2 3団体 公民館の活動について理解を深めて頂くとともに、利用団体からの意見、要望を伺った。衛生環境を徹底するため整理整頓作業を行った。
広報	根郷公民館だより	根郷地区の各世帯及び事業所	4/15 7,700部 9/15 7,500部	公民館の主催事業、利用団体の活動、地区の情報などを掲載した館報を発行した。
図書	図書の貸出・返却	幼児～成人	通年実施 貸出 1,358冊 返却 3,314冊	佐倉市立図書館と連携し、図書の貸出、返却の受付を行った。

1. 家庭教育事業

みんなと遊ぼう ぽっぽちゃんくらぶ

① 開設趣旨 絵本の読み聞かせや簡単な工作、親子遊び・体操などを通して、幼児の想像力や豊かな心を育み、同年齢の友達と触れ合うことで幼児期の人格形成を促す。また、参加者同士の交流を図り、地域における仲間づくりの機会を提供する。

② 募集対象

令和2年4月2日～令和3年4月1日生まれの幼児とその保護者

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	5月12日(金) 10:00～11:30	折り紙を使って	楽母楽子 廣田 和子
2	5月26日(金) 10:00～11:30	新聞紙ちぎり	
3	6月 9日(金) 10:00～11:30	おうちの人にプレゼントを作ろう	
4	6月23日(金) 10:00～11:30	七夕 短冊にお願い事を書こう	
5	7月14日(金) 10:00～11:30	ボールをつかって	
6	9月 8日(金) 10:00～11:30	お魚釣りをしよう	
7	9月22日(金) 10:00～11:30	かけっこ しよう	
8	10月13日(金) 10:00～11:30	手形をとろう	
9	10月27日(金) 10:00～11:30	作ってあそぼう	
10	11月 3日(金) 10:00～11:30	(家族参観日) ロケットを飛ばそう	

1 1	1 1 月 2 4 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	フープを使って	
1 2	1 2 月 8 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	ツリーに飾るものを作ろう	
1 3	1 月 1 2 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	たこあげをしよう	
1 4	1 月 2 6 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	鬼のお面を作ろう	
1 5	2 月 9 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	みんなで運動会	

④ 講座を終えて

今年度は新たな試みとして、令和 5 年 5 月から令和 6 年 2 月まで 1 年間を通して事業を展開した。

これは、事業の開催趣旨である「同年齢の友達と触れ合うことで幼児期の人格形成を促す」「参加者同士の交流を図り、地域における仲間づくりの機会を提供する」によるものである。保護者はもちろん、子どもたちも回数が進むにつれ、慣れていき交流を深めていった。

また、佐倉市の DX 推進ということで LINE で情報発信を行ったり、ちば電子申請サービスでの申し込みとした。これについては、若い世代ということで苦情もなく、受け入れられたと思う。

さらに、商業施設や公共施設でチラシを配布するだけでなく、南部保健センターで行われている幼児歯科検診で対象年齢の子を持つ保護者に配布してもらった。これも、その時のチラシを見て申し込んでくれた方がいたので大変有効であったと思う。

アンケート結果を見ると、参加者全員より「満足」との回答であった。

新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行されたが、小さい子どもを持つ保護者は、やはり警戒する人がまだまだ多い。来年度はさらに受講者が増えるよう、チラシの配布を増やしていきたい。

また、ぽっぽちゃんくらぶが終わった後でも、地域における仲間として、関係を築いていってもらえればと考える。

こども工房 家族と楽しむ寄せ植え体験講座

- ① 開設趣旨 こどもとその家族で寄せ植えを作ることにより、コミュニケーションをとることを目的とする。また、育てた寄せ植えが地域住民の目に留まることにより、きれいなまちづくりの一助とすることもねらいとしている。
- ② 募集対象 小学生と保護者 10 組（1 組 3 名まで）

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	6月17日（土） 10:00～12:00	家族で寄せ植えを作り、その後、 きれいな花を咲かせるための手 入れを行う	日本ハンギン グバスケット 協会 高橋洋 子

④ 講座を終えて

はじめに土づくりから。培養土と腐葉土、それに肥料を入れて、まぜまぜ。子どもたちは大喜びで土づくりをしてくれる。よく混ざったところで鉢に入れ、いよいよ寄せ植え開始。今回はコリウス、マリーゴールド、マツバボタン、アゲラタム、リシマキアの5種類を植えていく。

しかし、すぐに植えていくのではなく、まずは下のほうの葉や小さな芽を丁寧に取ってから植えていく。これをしないと、鉢の中がいっぱいになり、水分をあげた時に弱いものは必要なだけの水分を得ることができずに枯れてしまう。

植え方についても、初めに鉢の中心に背の高いコリウス、次にマリーゴールド、マツバボタンは対角に植えていく。できる限りきっちりと植えたほうが仕上がりがきれいになるとのことであった。土づくりから始めて、およそ1時間半。それぞれきれいな寄せ植えが出来上がった。

講座後のアンケートでは、多くの方から「楽しかった」「また企画してほしい」「土づくりがとても楽しかったようです」との声をいただいた。来年度もぜひ継続して行っていきたいと考えている。

2. 青少年教育事業

防災デイキャンプ

- ① 開設趣旨 近年頻発している自然災害に対する知識や、災害時の対応について、意識や関心を高めるため、根郷公民館を避難所と想定し、体験的な防災教育を行う。
- ② 募集対象 根郷地区小中学校 児童・生徒 21人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	7月31日（月） 9:30～15:00	防災啓発DVD鑑賞 避難所で役立つゲーム講習会 防災食作り 避難所運営ゲーム	佐倉市ジュニアリーダーズクラブ、 佐倉市民生委員児童委員協議会、 危機管理課職員

④ 《講座を終えて》

コロナが5類に移行したとはいえ、今年度も手指消毒等の感染対策を行ないながら事業を実施した。

今年度は、①防災関連のDVD視聴 ②避難所でできるゲーム講習会 ③防災食作りと試食 ④避難所運営ゲーム（HUG）の4つのテーマで開催した。

昨年のHUGは、班分けしてすぐに行ったため、声が出ずなかなか話し合える雰囲気ではなかったことから、今年は、一日同じ班で行動することとした。

最初に佐倉市ジュニアリーダーズクラブを講師にゲームを行い、アイスブレイクの時間とした。さらに「同じ釜の飯」ではないが、一緒に調理し、試食することでさらに距離がちぢまった。そのままジュニアリーダーにHUGに加わってもらったことで、受講者からも意見が出やすくなり、疑似避難所運営が有意義な時間となった。講師からは、「避難所運営には、答えはありませんが、住民の方の協力が必要です。」と。

アンケートを見ると、全員が「役に立った・少し役に立った」と回答し、「次回も参加したい」が半数を占めた。ジュニアリーダーの全員から「事業に参加して満足」との回答をいただいた。意見については、「HUGの時間が足りない」「他の班の考えを知りたかった」等であった。

正直、テーマ的には大事だが、参加者が少ないことが課題である。しかし、続けなければ、いざというときに困るので、来年度以降も内容を検討しつつ続けていきたい。

夏休み子ども体験講座 絵画教室

- ① 開設趣旨 体験型の講座を通して、受講生のやる気や、創造力、自主性を養う。
- ② 募集対象 小学1～6年生 15人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	7月28日（金） 13:00～16:30	夏休み子ども体験講座 「メタル絵画に挑戦しよう！」	ワールサークル会員 他

④ 講座を終えて

体験型の「メタル絵画講座を通して、子どものやる気や自主性・協調性等

を養う」を企画した。

当日は、感染対策は、受講生の自主判断に任せた。

講座では、ティッシュペーパーの空き箱を使って、好きな題材の絵を描き、切り貼りして、「メタル箔」を貼り、最後にスポンジで磨き、金属のような光沢を持った絵画に仕上げた。

作成中、みんな集中して作業を行い、私語が一切なかったので、講師から非常に感心したとの感想があった。

作品は、宝石や東京の夜景、夜の海、夜の街等、金属のような光沢が夜の月明かりを連想させ独創的な作品があった。

最後に、受講生がお互いに鑑賞し、講師からの講評もあいまって、おのおの、他の受講生が作った作品の感想を言い、時間まで楽しみながら学んでいる様子がうかがえた。

アンケート結果を見ると、「楽しかった」が13人と多く、満足度が高い評価となった。「次回参加したいか」について、小学6年生の受講生が「いいえ」につけたが、「参加したい」が多いという結果となった。「公民館でやってみたいこと」の自由意見は、学校では教えられない、生け花やおもちゃ作りなど多種多様で、公民館として多様な事業が求められているという結果になった。

アンケート結果から、「次回も参加したい」が多かったため、来年度も絵画を継続し、次回以降テーマを検討していきたい。

夏休み子ども体験講座 読書感想文教室

～今年の夏は、読書感想文から始めよう～

① 開設趣旨 児童・生徒が、本に親しむ機会を作るとともに読書の感動を文章に表現することを通して豊かな人間性を考える力を育み、正しい日本語で自己表現力を養う。

② 募集対象 小学5～中学2年生 20人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	7月21日（金） 13:30～15:30	なぜ読書感想文が宿題になるのか。 本の選び方、読書感想文の書き方	元中学校国語教諭 岡本 万里子
2	8月18日（金） 10:00～11:30 13:00～14:30 14:30～16:00	読書感想文の書き方、まとめ	

④ 講座を終えて

児童・生徒が本に親しむ機会を作ることを目的に今年度初めて企画した。夏休みの宿題に読書感想文がある小学5年生～中学2年生を対象としたが実際、中学生の応募があるか不安であったが、6人が集まった。（全体の応募は14人）

1回目の講義は、そもそも「なぜ読書感想文が夏休みの宿題になるのか」というところから解説が始まり、本の選び方、読書感想文の書き方へと進んでいった。「なぜ」の回答は、「本を読んでもらい考えてもらいたい。

文章力を身につけてもらいたい」からだそうだ。選ぶ本は、何も難しい物を選ぶ必要はなく、興味のあるものや読みやすい物を選ぶと良いとのこと。

当日は、佐倉南図書館から司書を派遣してもらい、受講者の相談に乗ってもらった。読書感想文で大切なのは、「書き出し」と「まとめ」だそうで、講師の指導もそれが中心だった。

2回目は、3班に分かれ、個々に対応してくださり、みな思い思いの作品が出来上がった。だが、中には、「もう少しで完成」というところまではいったものの、時間内に完成することができない受講生がいたが、講師のご厚意で別の日に3回目を対応していただき、完成することができた。アンケートを見ると、大半が「役に立った」「次回も参加したい」と答え、夏休みの宿題が1つは、計画的に完成することができ、事業としては、成功したと思う。だが、根郷中学校は、宿題に読書感想文が入っていなかったことは、リサーチ不足だった。周知方法等検討し、来年度以降もうしばらくは、継続していきたい。

夏休み子ども体験講座 勾玉づくりに挑戦！

① 開設趣旨 勾玉作りや展示する土器などを通して、縄文時代の生活に触れる機会とするとともに、ものづくり体験の喜びを実感してもらうことで受講者のやる気や自主性を養う。

② 募集対象 小学3～6年生 各回20人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	8月10日（木） ① 9：30～11：30 ② 13：30～15：30	勾玉づくり 古代のアクセサリーをつくろう	千葉県教育委員会 文化財課職員

④ 講座を終えて

この勾玉づくり講座は毎年人気の講座であることから、今年度は午前、午後の2回開催することとした。また、受講者数も昨年の15名から1講座20名と増やすことにした。

申し込みについては、やはり定員を上回り、抽選となった。多くのかたが根郷地区であったが、臼井・千代田地区や志津地区からの応募もあった。

また、今年度は新たな取り組みとして、佐倉南高校の生徒に地域事業への参加ということで、この事業のサポートに来てもらった。

講座は、初めに縄文時代や弥生時代の土器や石器などについて解説があり、そのあと、実際に土器や石器を触ってみたりして、楽しみながら古代の人々の暮らしや文化について学習することが出来たと思う。

勾玉づくりでは、講師のわかりやすく丁寧な説明を受け、砥石や紙やすりで削ったり磨いたり作業を行う。高校生も、順次子供たちのサポートをしてくれて、皆集中して作業を行っていた。およそ1時間半後、皆それぞれに勾玉を完成させることができた。

アンケートでは「楽しかった」「来年も参加したい」という声が多く寄せられており、楽しく貴重な体験ができたと思う。

来年度も今回と同様に午前、午後の2回開催することで少しでも多くの児童に体験してもらいたいと考える。

3. 成人教育事業

根郷寿大学

①開設趣旨 高齢化社会の中で、郷土愛を育み、地域の中で連帯を持ちながら健康で充実した生活を過ごせるよう、健康の保持増進、歴史・文化、社会現象などの学習の場を提供するとともに、受講者同士の交流を図る機会を提供する。

② 募集対象 60歳以上 80人

③プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	5月19日（金） 9：50～12：00	開講式、オリエンテーション 日程説明、班長（副班長）の選出、 グループ討議	館長 担当
2	6月16日（金） 9：20～12：00	佐倉の郷土の先覚者 津田仙・西村勝三	元根郷小学校校長 諸根 彦之
3	7月20日（木） 9：20～12：00	ゼロカーボンシティと ごみのリサイクルについて	生活環境課 廃棄物対策課
4	9月15日（金） 9：20～12：00	地域防災について	根郷小学校区まちづくり協議会 防災士 森哲郎
5	10月20日（金） 9：20～12：00	音楽鑑賞	佐倉アルペジオ ギターサークル
6	11月17日（金） 9：20～12：00	市内企業の取り組みについて	（株）小川園
7	12月15日（金） 9：20～12：00	口から始まる健康習慣	健康推進課
8	1月19日（金） 9：20～12：00	学び合い講座 歌ってすばらしい	根郷寿大学4班
9	2月16日（金） 9：20～12：00	北総四都市江戸紀行について	文化課
10	3月15日（金） 9：20～11：00	グループ発表 閉講式	館長 担当

④ 講座を終えて

今年度は、5月に、感染症法上の位置づけが「5類」に移行したことから、コロナ前とほぼ同数の、1グループ制80人の定員で開講することができた。

講座の内容は、佐倉の歴史、地域防災、健康など様々なジャンルを取り入れた。昨年度のアンケートに「自分たちで講座を組み立てたい」との意見があったため、1月に「学び合い講座」を実施した。各班からアンケートを取り、4班の受講生が中心で講師となり、「歌ってすばらしい」をテーマに、懐メロの合唱を行い、好評だった。

班活動では、印旛郡市6市町を廻ったり、はとバスツアーに参加したりと各班活発に行動し、親睦を深められたようだった。

アンケート結果を見ると、講座の内容は、「良い」との回答であった。その他、講座内容や部屋割り・音量等の要望があり、それを踏まえ、マンネリ化しないよう気

をつけながら次年度以降につなげたい。

今年度から始めている、ちば電子申請サービスでの申し込みであるが、応募者 9 2 人に対し、2 7 人が利用していた。来年度は、徐々にでも良いので、ちば電子申請サービスでの申込者が増えるよう取り組んで行きたい。

シニアのための健康づくり講座

- ① 開設趣旨 生活習慣病の予防や、日常生活の中で簡単にできる運動を学び、シニア世代になっても健康で日々暮らせるようにする。
- ② 募集対象 成人 20 人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	10月 4日（水） 10：00～11：30	柔軟、筋トレ、有酸素、バランス運動の 4 つの運動を中心に学ぶ	A F A A 認定 インストラクター 森 たか子
2	10月 11日（水） 10：00～11：30		
3	10月 18日（水） 10：00～11：30		
4	10月 25日（水） 10：00～11：30		

④ 講座を終えて

本年度の健康づくり講座も例年通り、定員 20 人、4 回の講座として募集を行った。申込み者は 19 人であった。1 人を除き全員初めて受講される方々であった。

第 1 回目ヘルスチェックアンケート実施。受講者の多くは 65 才から 75 才であった。講師が体の不調の方がいないかチェックを行ってから講座が開始された。前半の講義では、健康づくりの基本的な考え方、日頃の生活のなかに健康づくりを取り入れる大切さと、その方法などを学んだ。休憩をはさんで、実技に入った。ストレッチと柔軟運動を中心としたエクササイズだったが、初めて受講される方が多く、内容がハードだったという意見もあった。

第 2 回目は、有酸素運動と筋力運動。後半は椅子を使ったストレッチ。回数を重ねるごとに体力がついてきているように見受けられた。

第 3 回目は、呼吸法について。防衛体力を高める呼吸法が効果的ということで、横隔膜、助間筋、腹横筋を意識した呼吸法の説明と実践。有酸素運動を促す体操が重点的に行われた。

第 4 回目は、今まで 3 回の要点、呼吸法などの復習を行った。音読の効用は、脳の記憶、学習感情を鍛える効用があるとの講義であった。その後ストレッチと柔軟運動を行った。どの回も、講師が受講者の体調に目を配っており、安心して受講できていた。

アンケートでは、満足 11 人、やや満足 5 人、学ぶ意欲が高まった 10 人、少し高まった 6 人との高評価を得ており、講座を受け運動を生活に取り入れようという受講者の機運が高まったと考えられる。また、こうした講座を継続的に開催してもらいたいという意見も寄せられた。今後も継続して行うべき講座と考える。

シニア向け初めてのスマートフォン教室

- ① 開設趣旨 スマートフォンの基本操作や、災害対策アプリ等の活用方法を学びシニア世代の方にスマートフォンを安全に使って生活の幅を広げてもらう。
- ② 募集対象 60歳以上 午前10人 午後10人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	10月 6日（金） 10:00～11:30	基本的な使い方や文字の入力方法、簡単なゲームアプリの使い方を学ぶ	ドコモスマホ教室専任講師
2	10月 6日（金） 13:30～15:00		

④ 講座を終えて

講師1人を含めスタッフ計3人で対応。「らくらくスマートフォン」を使っの講義。スマホのスイッチの入れ方から、スタート画面の説明、「スライド」「ドラッグ」「タップ」などの基本的用語の説明、長押しした時の機能、画像の拡大の仕方、マナーモードの使い方などの機能の説明があり、それに続き受講者が実際操作を行った。講義では短いテーマごとに説明を区切り、続いてそれに対応する操作してみるという形ですすめられた。操作にあたってはスタッフが指導に当たった。3人に対し1名のサポートが付いたため、一人ひとりの受講者に対し時間をかけ丁寧に納得がいくまで説明ができていた。

後半はインターネットでの検索の仕方。音声入力での検索を行うための、マイクの使い方、話すタイミングなどの指導があった。音声入力など受講生が興味を持って操作している様子が伺えた。続いて、写真の取り方や、ビデオの取り方を実践。きれいに撮れる方法、セルフタイマーの使い方などの説明があった。実践した最後の質疑応答でも活発に質問が出ていた。講師も丁寧に応答していた。全体を通して基本操作に重点が置かれており、また、説明より操作の時間が多く振り分けられていたため、同じ操作を何度か繰り返す中で、徐々にスマートフォンに馴染んでいった様子が見て取れた。テキストも、文字や図が大きく描かれており見やすく、入門編とし最適な内容となっていた。アンケート結果は、おおむね好評であった。

園芸教室「目で見て食べて楽しめるローゼル」

- ① 開設趣旨 佐倉ハーブ園と連携し、ハーブという植物を通して、園芸の基礎を学ぶとともに、地域について知る機会とする。
- ② 募集対象 成人 25人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	5月31日（水） 10:00～12:00	栽培の基礎と管理の方法についての講義	佐倉ハーブ園園長 柴田 忠裕
2	6月7日（水） 10:00～11:30	ハーブ園散策とハーブを使っの挿し木の実習	

④ 講座を終えて

第1回目 はじめにハーブ園の成り立ち、現在の状況などについての解説があっ

た。「佐倉市は千葉県の中で一番気温が高く一番寒い、また、梅雨の雨量より秋雨の雨量のほうが多といった現状を踏まえて栽培することが大切であり、特に排水をしっかり取っておくことが重要である。」など、佐倉市で園芸を行う上で重要なポイントが指摘された。ハーブは五感で楽しむものであり、多くの人はハーブに「健康・香り・食べる」の3つのことを求めており、今回は食べられるをテーマとしローゼルを扱う。どのように食べられているのか、栽培の注意点、効用などが紹介された。実際に栽培したローゼルを挙げ、優良株の見分け方などの説明があった。次回はローゼル鉢植えを行うということで、受講生も楽しみにしている様子であった。講義内容も90分で収まる内容でちょうどよかった。

第2日目 ハーブ園での実地講習。はじめに実物を示してのハーブの説明。続けて園内を散策しながら植えられたハーブの特徴、育て方などの説明。また、実際に葉の香りを嗅いでみたり、花を味見したりと五感を使った講義となった。受講者は歩きながらメモをとるものも多く、質問も活発で非常に熱心な様子うかがえた。実際のハーブを見ながらの講義は、座学とは違い、実感がわき興味深いものとなっていたようである。最後にローゼルの鉢植えを行い、ローゼルティーも味わい終了。今年、歩道が車いすでの見学に対応できるようコンクリートに舗装されていた。来年は大幅にハーブ園が整備されるということなので、より手軽に充実したハーブ園を散策できるのではないかと期待できる。また、定員はハーブ園のスペースを考えると25人が最適かと思われる。

珈琲学入門講座 ～おいしさの方程式～

- ① 開設趣旨 市民の方は、毎日忙しい日々を送っているが、今日だけは日常を忘れ、珈琲の基礎知識や文化と歴史、珈琲豆の選び方や、抽出技術などを学び、珈琲の持つ魅力を再発見し、至福の一杯に出会う機会とする。
- ② 募集対象 成人 10人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	11月11日（土） 9：30～12：00	珈琲の基礎知識や文化と歴史、珈琲豆の選び方や、抽出技術を学ぶ	珈琲焙煎士 坂井 稔

④ 講座を終えて

講座は、珈琲の器具の説明から始まった。ドリップ式・サイフォン・コーヒーマーカーそれぞれ違いがある。

ドリップ式には、さらに穴の数により、抽出時間の違いがあり、3穴は、早く抽出できるので、スッキリした、1穴は、3倍の時間をかけるので、コク深い一杯に仕上げる事が出来る。

サイフォンは、アルコールランプで、温めながら抽出することで、豆の個性がさらに際立つそう。コーヒーマーカーは、会社やファミリーレストラン等大量に抽出するのに向いていて、味は・・・。

次に、講師がドリップ式の、デモンストレーションを行った。「エグ味・雑味・灰汁を浮かせて美味しい所だけ落とすんですよ！」受講者は、「至福の一杯に仕上げる」という意気込みで、真剣に講師の動作を見ていた。

いよいよ、自分が店主となり、抽出が始まった。早速「あっ！」という焦ったような声があちこちで……。すると、講師が「気にせず続けてください」と。

1回目が終わって、周りの方たちと飲み比べをしたが、「うーん」という表情。

2回目に備え、お湯を沸かしている間に、珈琲の歴史と、抽出のポイントの話や、

サイフォンでの抽出のデモンストレーションがあった。ブラジル2回、グアテマラ1回、モカ1回、計4回の抽出が終わるころには、それぞれ「至福の一杯」に出会えたようだった。

アンケートの結果を見ると、ほぼ全員が満足と答え、次回を望む声も多数あった。来年度は、1回限りのイベントで終わらず、継続して行けるような仕組み作りを行いたい。

明治安田生命連携事業 『仕事や家庭に役立つ「整理収納」講座』

① 開設趣旨 整理収納の基礎や片付けのルールを学ぶことで生活環境を整え、仕事、私生活両面においてより質の高い生活を送るための一助とする。

② 募集対象 成人 50人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	11月30日（木） 10：30～12：00	基礎編：チェックリストで整理収納レベルを知り、課題を検討する。	明治安田生命派遣の講師
2	12月7日（木） 10：30～12：00	実践編：片付けの三大効果を考えながら、整理してみる。	

④ 講座を終えて

なぜアドバイザーになったかなどの、体験談を含めての自己紹介。受講者に質問し受講者と対話しながら進めるなど、注意を引く構成で、また、体験談は受講者の共感を呼ぶ内容であった。

基礎編では、片付けには、心のゆとり、心を豊かにするなど精神的な効果があり、生活へのモチベーションを向上させるなどの効果があるとのこと。一方、片付けには経済的効果もあるということで、データを示して説明があり、説得力のあるものとなっていた。

ごみを減らすポイントについて、捨てられないものを分離・羅列し、個々の事例への論理的な説明を行うなど、曖昧だった物へのイメージを明確化することにより、要らないもの捨てる決断を促す手立てとなる。

具体的な整理のポイントは見える化から始まる。片付けのポイントを写真や図を交えながら、ビフォー・アフターを例示することで大変わかりやすい。また、実際に片付けにかかった時間が示されており、大変参考になった。

実践編では時間的・経済的・精神的な片付けの三大効果を念頭に、整理のポイント、収納のポイントなどを、実践に合わせた具体的な説明があった。片付けた後、それを継続するポイントなどの解説もあった。

アンケート結果は、概ね好評であった。ただ、次回からは公民館の利用状況を勘案しながら、駐車場が混まない日程で実施することが望ましいと感じた。

千葉県文書館出前講座

『近世城下町の祭礼～江戸天下祭りと佐倉城下麻賀多明神祭礼を素材に～』

① 開設趣旨 江戸の「天下祭り」と佐倉の「麻賀多明神祭礼」を素材に学ぶことを通じ、郷土の歴史、文化に関する理解を深めるとともに、郷土愛を醸成する。

② 募集対象 成人 50人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	9月29日（金） 10:00～12:00	江戸の「天下祭り」と佐倉の「麻賀多明神祭礼」を素材に学ぶことを通じ、郷土の歴史、文化を学ぶ	千葉県文書館 白谷 茉莉

④ 講座を終えて

江戸時代の祭礼がどのように始まったのか、その成り立ち、歴史的背景などの説明があり、祭礼に関する基本的知識がより深まった。また、資料には、地図、写真などが多用されており、視覚的にも理解しやすいものであった。特に普段目にすることがない古文書については、文書館ならではの貴重な資料が紹介されており、興味深いものとなっていた。江戸時代、神田明神、山王権現の祭りが、幕府も関与し江戸市民の重要な行事として行われていたことが感じられた。

佐倉の秋祭りは、佐倉市民にとっては昔から身近なものでありながら、その成立、歴史的背景を正式に学習する機会が中々なかったように思われる。文書館主催ということで、様々な資料をもとに、多角的に佐倉の祭礼について学べたのは意義深いものであった。祭りの成立に関しては、江戸時代の堀田家の歴史も折込みながらの説明であり、市民にとって、より興味の持てる内容となっていた。今年の秋祭りは10月13日～15日であり、祭礼に関する理解を深めるにはよいタイミングであり、受講された方はより興味を持って秋祭りを見学できるようになったものと思われる。資料は多めに見えたが、分量に対する講義時間もちょうどよく、内容の濃い講義であった。

講師の声が聞き取りにくいとの指摘があったので、スピーカーの音色、高音域を最大に、低音域を最小にして対応した。

東洋大学生涯学習支援プログラム『記憶と忘却のメカニズム』

- ① 開設趣旨 高齢化が進む中、心身両面における健康を維持しながら、市民がより有意義なより充実した老後の人生を過ごすための一助とする。
- ② 募集対象 成人 50人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	11月10日（金） 14:00～15:30	認知症、物忘れなどについて科学の視点から理解する。	東洋大学生命科学部生命学科 児島伸彦教授

④ 講座を終えて

「認知症を科学する」を副題に講義が行われた。老化と認知症の症状は違うとのことで、その違いについて説明があった。図を用いながら脳のそれぞれの部位の働き、その関係性についての話があった。記憶はネットワークで記憶されている。別のニューロンのネットワークと繋がっていくことで記憶が強化されるとのことであった。アルツハイマー型認知症に関しては、アミロイドβが関連しているとのこと。アミロイドβが脳に溜まらないようにするにはどうしたらよいのか。「まず知識として理解し、しっかり対策に取り組んでいくことが大切である」との指摘がありました。今話題のアルツハイマー型認知症の進行を遅らせる薬「レカネマブ」に関し

ては、その効果は今後の症例次第であるとのことでした。
 当地域でも高齢化が進んでおり、多くの市民は物忘れや認知症などへの関心が高くなっている。そのため当館でも様々な認知症予防関連の講座を行ってきている。そんな中でも、今回のような科学的なアプローチからの講演は初めて。科学的な見地からデータなどを通して認知症を客観的に知る事で、より理解を深め、これからの生活に役立つ講演だったと思う。説明も明確で大変わかりやすかった。ただ、講演後、先生に直接質問される方が多かったので、公演の中に質疑応答の時間設けた方が良かったのではないかと感じた。

おとなのための寄せ植え体験講座

- ① 開設趣旨 寄せ植え体験をすることで、自然とのふれあい、土とのふれあいを楽しんでもらうことを目的とする。また、育てた寄せ植えが地域住民の目に留まることにより、きれいなまちづくりの一助とすることもねらいとしている。
- ② 募集対象 成人 20人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	12月17日（日） 10:00～12:00	寄せ植えを体験することで、自然との触れ合いを楽しんでもらう。また、その後育てていくことのできるきれいなまちづくりの一助となる。	日本ハンギングバスケット協会 高橋 洋子

- ④ 講座を終えて
 講師に日本ハンギングバスケット協会 高橋氏を迎えての「おとなのための寄せ植え体験講座」。5月に「親子で楽しむ寄せ植え体験講座」を行っていただいたが、今回は「おとなのための」、ということで開催した。
 今回の花材は全部で8種類。楕円形の鉢に植えていく。が、まずは苗の整理から。咲いて終わった花を取り除き、下のほうの葉っぱもていねいに取り除く。葉ボタンなどは、土をていねいに落として植えるようにすること。
 受講者は順番に植えていくだけかと思っていたようで、そのような作業があるとは思っていなかった様子。が、先生の指導のもと、作業を進めていった。
 寄せ植えをするコツは、三角形を意識すること。ビオラが3株あったが三角形を意識して後ろに2株、前に1株。そのほか白妙菊なども3株あるので三角形を意識して植えるようにするときれいに見えるとのことであった。また、講座の最後でいかに長持ちさせるか。「手入れをしてあげれば4月ごろまで楽しむことができる」とのことであった。
 講座後のアンケートでは、参加者すべての方から、参加してよかったと回答をいただいた。また、「自己流でやっていたが、今回参加して目からウロコだった」といったご意見もあった。
 今回の講座では定員20人のところ、申し込みが31人。参加者からも「また企画してほしい」との声をいただいている。来年度もぜひ継続して行っていきたい講座の一つである。

佐倉学入門講座 中世佐倉の道の歴史

- ① 開設趣旨 中世佐倉の水陸交通について、根郷地区を中心に学ぶきっかけづくりとする。

② 募集対象 成人 50人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	5月29日（月） 10:00～12:00	中世佐倉の水陸交通について、根郷地区を中心に学ぶ	佐倉市文化財審議会 副委員長 遠山 成一

⑤ 講座を終えて

「中世佐倉の水陸交通について根郷地区を中心に学ぶきっかけづくりに」と企画した。当日は、感染対策として、窓開け換気を十分に行った。

講義は、下総道を中心に千葉県の道の成り立ちから話が始まり、下総道の詳細をスライドと地図を用いてお話いただいた。公民館の近くに道標があることから、これを中心に根郷地区・和田地区の道の成り立ちや成田詣でに向かう旅人の様子も交えながら興味深い講義となった。

アンケート結果を見ると、資料（地図）の不足を指摘する意見が多数あり、その関係で、満足度の評価が二番目の「やや満足」に印をつけた方が他の講座より多い結果となった。また、未記入も多く、これは、「不満」に印をつけたいところだが、「大人の対応」を取った方が多かったと推測する。これについては、講師との事前打ち合わせを密にするようにしていきたい。

昨年からはじめている、ちば電子申請サービスでの申し込みであるが、応募者72人に対し、46人が利用していた。だいぶ普及してきたように感じるが、全員が、ちば電子申請サービスで申し込めるようにPRも継続していきたい。

来年度も、テーマを変え、もうしばらく佐倉の道についての講座を継続していきたい。

佐倉学入門講座 カメラで覗いた印旛沼

① 開設趣旨 印旛沼の自然や歴史的風景を学ぶことで、郷土への愛着と理解を深め、地域を見直す機会とするともに、佐倉市の新たな魅力を発見する機会とする。

② 募集対象 成人 50人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	11月29日（水） 10:00～12:00	写真を通して印旛沼の歴史、地域の文化を学習する。	内田 儀久（市史編纂委員）

④ 講座を終えて

内田儀久氏を講師に迎え「カメラで覗いた印旛沼」と題しての講座。講座は、印旛沼の四季折々の美しい風景など、印旛沼を撮り続けるその魅力を紹介。また、江戸時代印旛沼はどのように紹介されていたのか、明治時代の様子はどうだったのかなど文献を通して見えてくる歴史的な風景やエピソードも披露された。

まずは、印旛沼の四季折々の風景。佐倉市内にとどまらず、印西市など様々な場所で撮影されていた写真が紹介されていた。また、写真にはカメラの機種、レンズ

の種類など撮影時のデータも紹介されていた。そのため同じように写真を取りたい方には参考になるデータとなっていた。風景の一瞬を捉えるために工夫した点、苦労した点などを撮影者ならではのエピソードを交えた説明があった。また、印旛沼の写真をとるには「富士山や筑波山を入れることがポイント」ということで、富士山の撮影ポイント、筑波山の撮影ポイントなど地図入りで紹介されており実戦的で大変分かりやすく興味を引く内容となっていた。

また、赤松宗旦義知の「利根川図志」に紹介された臼井八景、佐倉藩主稲葉氏の家臣磯部昌言の「佐倉風土記」や、十方庵敬順の「遊歴雑記」など歴史的文書を交え、昔の人はどういう点に印旛沼の魅力を感じていたかなどについての話があった。

映像という新しい視点から印旛沼を見ることで、新たな郷土の魅力を発見することができた。アンケートでも好評であった。

佐倉学入門講座 根郷ふるさと探訪

- ① 開設趣旨 市内の自然を散策しながら、春や秋の野草・古木等を観察し、自然に親しむことにより、郷土の自然について理解を深める。また、郷土の歴史・文化・自然を学び、郷土愛を高めるとともに、地域を見直す機会を提供する。
- ② 募集対象 下記のとおり
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	募集対象	講師
1	4月14日（金） 9：30～ 12：00	春の野草観察会 市内の自然を散策しながら、野草や古木等を観察し、郷土の自然について関心を高める	成人 15人	佐倉野草会 近藤 維久子
2	10月17日（火） 9：30～ 12：00	秋の野草観察会 根郷地区の自然を散策しながら、秋の野草や古木等を観察し、自然に親しむことにより、郷土の自然について理解を深める	成人 15人	佐倉野草会 近藤 維久子
3	11月 8日（水） 12：00～ 16：00	寺崎地区史跡めぐりと 3年ぶり！令和の大改修後 初の寺崎薬師大祭に行こう！	成人 20人	寺崎在住 菊地 昭夫

- ④ 講座を終えて
《春の野草観察会》

今回は大蛇の里山を中心としたコースで観察会を実施した。

大蛇の里山では、ボランティアの木村さん、斉藤さんが里山再生のご苦労などを話してくださり、また、それにより、貴重なキンランやギンランが増えてきたことなどもお話しくださった。特にギンランは希少植物であるため、参加者も熱心に説明を聞き、写真撮影など行っていた。

神明神社では、樹齢250年～300年のケヤキやアカガシなどの古木が残されており、すぐそばの住宅街に溶け込むように守られている。神社入り口のアカガシの幹を測ったところ、およそ5メートル。このように立派な古木が保存されていることに、参加者の多くは感心していた。

《秋の野草観察会》

秋は「太田地区の古村に残る屋敷林と山王地区につながる田んぼのあぜ道を散策しながら秋の身近な自然に親しむ」をテーマに観察会を実施した。大田地区は昔から水が豊富であること、また樹齢300年にもなるスギ、スダジイ、ケヤキ、ムクノキなどの古木をはじめ多くの家で屋敷林があり、地域の人々によって守られ残されている。

春、秋ともに多くの方に参加してもらった野草観察会だが、佐倉にはまだまだ多くの自然が残されている。今後も郷土の自然について、理解を深めてもらえるよう自然観察の機会を提供していきたい。

《寺崎地区史跡めぐりと3年ぶり！令和の大改修後初の寺崎薬師大祭に行こう》

今年密蔵院薬師堂の改修工事が終了し、大祭が3年ぶりに開催されるということで、実施した。この時期にしては暑い日が続いていたので心配したが、当日は心地よい秋風の吹くさわやかな陽気の中での開催となった。

寺崎地区の散策は、寺崎小学校を出発し、寺崎トンネル、埋葬（土葬時代の名残）諏訪神社、庚申塚、南六所神社、淡島神社、薊権現、神明宮、古峰神社、薬師堂、寺崎城跡と、多くの場所を回った。参加者は講師の話を熱心に聞き、その歴史に感心していた。また、中世の面影を残す、先の見通せない狭い小路の町並みは、市内でも類をみないものである。

今後は寺崎地区をはじめ、根郷地区の他地区名所などもその魅力を伝えることが大切であると考えている。

佐倉学体験講座 こんにゃく作り講座

- ① 開設趣旨 江戸時代には、将軍家へ献上されていたという佐倉のこんにゃく。地域住民の協力を得てこんにゃくを手作りする。
- ② 募集対象 成人 15人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	12月 5日（火） 10：00～13：00	地域住民の協力を得てこんにゃくを手作りする	牛玖 昌弘

④ 講座を終えて

昨年に続き、こんにゃく作り講座を開催。佐倉＝こんにゃくというイメージはない。が、根郷産こんにゃく芋を使用したこんにゃくが江戸幕府への献上品であったことで、佐倉学講座として募集している。講師が栽培した根郷産のこんにゃく芋は、天候の影響や無農薬で育てているとのことで、思うような芋ができなかったとのこと。今回も山武産のこんにゃく芋を調達してくださった。1テーブル2、3人ずつとなったが、受講生は非常に楽しそうに初めての方とも和気あいあいとした雰囲気、協力しながら、実習していた。おもえば、昨年まではコロナ禍ということで、マスクは勿論、会話も控えめにしなければならなかった。

しかし、今年はマスクこそしていたが、皆さん楽しそうに会話をしながら調理していた。

講師のほか1人応援要員の方が来ていただいたが、講師と同じように豊富な知識で、受講生の皆さんのお手伝いをしてくださったり、質問に答えたりしていただいた。

アンケート結果では参加者全員から「満足」と回答をいただき、大変好評であった。さらに、「コロナ禍でいろいろな講座が中止され、久々の講座を楽しみに来た」という方や、「初めてお会いした方々となごやかに会話、先生のていねいなご指導に充実した時間を過ごすことができた」とのご意見もいただいた。来年度もぜひ開催したい企画の一つである。

4. 団体育成事業

根郷地区社会教育関係団体への支援

根郷地区青少年育成住民会議

近年、青少年を取り巻く環境は著しく変化し、それに伴う諸問題は複雑かつ深刻化する傾向にあるようだ。こうした問題の解決のため、市民一人一人が問題解決に取り組み、家庭や学校、そして地域がそれぞれの立場で、各種団体と行政が協働して健全育成を推進していくことを目的に、昭和57年、佐倉市青少年育成市民会議が結成された。

組織としては市内7地区の青少年健全育成住民会議と、子ども会育成会連絡協議会、PTA連絡協議会などその他構成団体からなり、事務局は佐倉市こども支援部こども政策課が行っている。

根郷地区青少年育成住民会議は、地域住民が相互に連携協力し、青少年の健全な育成と非行防止、福祉の充実を図るため、研究並びに協議を行い、地域ぐるみ活動を伸長させることを目的としている。主な活動としては、防犯パトロールや地域行事の企画・運営、各種団体への助成などを行っている。

花の応援団

市民ボランティアにより公民館の花壇の手入れを行っています。年間を通し利用者により良い学習環境を提供するために活動しています。園芸活動を通して仲間づくりをし、生きがいのある生活を楽しむこと。また、園芸への知識の向上を図ることなどを目的としています。

日付	4/10	4/28	5/15	6/12	7/10	9/11	10/16	11/13	12/11	1/15	3/11	計
人数	4	6	4	2	5	5	5	6	6	6	6	55

定期利用者懇談会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面にて開催。

98団体へ書類を郵送

調理室利用者懇談会

① 開催趣旨 調理室美化を保つため、調理室保管棚を利用している定期利用団体の会員に集ってもらい、整理整頓作業を実施する。併せて調理室の利用について、要望や意見を聴取する懇談会を実施する。

② 対象 利用団体代表 3団体

③ 開催日時 3月2日（土）午前9時30分～11時

5. 広報事業

根郷公民館だより

- 趣旨 公民館の事業、利用団体の活動、地区の情報などを案内するために公民館だよりを発行した。
- 発行回数 年2回（4月15日、9月15日）
- 発行部数 4月15日号：7,700部 9月15日号：7,500部
 - 配布方法 各公民館・図書館の窓口配架。根郷地区各世帯に新聞折込みにより配布（4月15日号：7,300部
9月15日号：7,200部）

6. 図書事業

図書の貸出・返却

- 趣旨 読書活動を支援すると共に、個人学習や集団学習への資料提供を行い、学習の深化を図る。リクエストの受付や他館からの返却受付などの利用者の便を図る。
また、佐倉市関連資料や根郷地区関連資料を収集し、貸し出すことにより、地域理解を深めるための支援を行う。
- 蔵書数 約3千冊
- 月別貸出冊数・返却冊数

月別 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
貸出数 (冊)	139	111	142	126	141	105	133	97	81	72	99	112	1,358
返却数 (冊)	295	328	264	278	288	283	340	266	282	218	226	246	3,314